

単元名 日本の地域的特色と地域区分

配当時間 12時間

- 単元の目標 (1) 日本の自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の各項目に関する特色とそれに基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し理解するとともに、日本全体の主題図やグラフなどを、地域の共通点や差異、分布の傾向性などに着目して読み取ることができる。
- (2) 日本の自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の各項目による地域区分を、地域の共通点や差異、分布の傾向性などに着目し、比較したり関連付けたりして考察し、その結果を表現することができる。
- (3) 日本の自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の各項目に関する特色と、各項目による地域区分に関心をもち、日本の地域的特色を意欲的に追究するとともに、各項目に関わる課題を解決しようとする。

標準的な展開例

11220102_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 それぞれの地方について、知っていることを発表し合い学習計画を立てる。</p> <p>★日本の地域的特色をつかむために、どのような視点から調べることができるのだろう。</p> <p>○7地方区分の地域的特色を発表し合う。</p> <p>○地域的特色をつかむための視点を考え、まとめる。</p> <p>「自然環境」「人口」 「自然・エネルギー」「産業」 「交通・通信」</p> <p>○単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p>●日本にはどのような地域的特色があるのだろう。</p> <p>2 地形からみた日本の地域的特色と地域区分について調べる。</p> <p>★日本には、どのような地形の特色があるのだろう。</p> <p>○日本の山地や、山と川がつくる多様な地形について調べる。</p> <p>○変化に富む海岸について調べる。</p> <p>○地形からみた日本の地域区分について調べる。</p> <p>3 気候からみた日本の地域的特色と地域区分について調べる。</p> <p>★日本の気候には、地域によってどのような違いがあるのだろう。</p> <p>○四季の変化がはっきりした気候について調べる。</p> <p>○降水量の多い気候について調べる。</p> <p>○気候から見た日本の地域区分について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本海側の気候に含まれる新潟は、夏よりも冬の降水量が多い。 ・南西諸島の気候に含まれる名瀬は、一年を通して比較的气温が高い。 <p>4 地震・火山災害からみた日本の地域的特色と地域区分について調べる。</p> <p>★なぜ日本では多くの地震・火山災害が起こるのだろう。</p> <p>○地震や津波による災害について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震 ・津波 ・液状化現象 <p>○火山の噴火による災害について調べる。</p> <p>○地震・火山災害からみた日本の地域区分について調べる</p> <p>5 気象災害からみた日本の地域的特色と地域区分について調べる。</p> <p>★なぜ日本ではさまざまな気象災害が起こるのだろう。</p> <p>○様々な気象災害について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水 ・土石流 ・高潮 <p>○自然災害と人災について調べる。</p>	<p>・教P. 138～P. 139</p> <p>・（位置や分布・地域）</p> <p>・それぞれの地方について知っていることを発表させる。</p> <p>・世界地理で学習した視点を想起させる。</p> <p>・教P. 140～P. 141</p> <p>・不安定な地域に位置するため、複雑な地形がみられることに着目させる。（位置や分布）</p> <p>・平野の近くには川があることに着目させる。</p> <p>・砂丘も海岸の一つであることに気付かせる。</p> <p>・教P. 140の資料1を活用して、フォッサマグナの東側と西側では、山地の方向が違っていることに気付かせる。</p> <p>・教P. 142～P. 143</p> <p>・主に温帯に含まれる日本の中でも、地域によって気温や降水量が異なることに着目させる（位置や分布）</p> <p>・季節風が日本の気候に与える影響について押さえる。</p> <p>・地図帳P. 147～P. 148を活用して、日本海側の気候の雨温図において冬の降水量が多いのは雪によるものであることに気付かせる。</p> <p>・日本アルプスを越えて太平洋側に達するところには水分を失っていることから、愛知県の冬は晴れている日が多いことに気付かせる。</p> <p>【評】日本の各地方の雨温図の特色について、気温の高低や推移、降水量の多少や推移に着目して読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教P. 144～P. 145</p> <p>・地域によって、地震や津波、火山の噴火などの災害の起こりやすさが異なることに着目させる。（地域）</p> <p>・阪神・淡路大震災や東日本大震災について押さえる。</p> <p>・地図帳P. 149～P. 150</p> <p>・教P. 144の資料3を活用して、日本の火山の多さや位置をつかませる。</p> <p>・教P. 146～P. 147</p> <p>・地域によって気象災害の起こりやすさが異なることに着目させる。（地域）</p>

- 気象災害からみた日本の地域区分について調べる。
- 6 災害への備えについて調べる。
 - ★ 多くの自然災害から地域や人々の生命を守るために、私たちはどのようなことに取り組めばよいのだろう。
 - 防災・減災への工夫について調べる。
 - ・ハザードマップ ・ライフライン
 - ・自助 ・共助
 - ・公助
 - どのように災害と向き合うかについて考える。
 - ・地域で避難訓練があるときはできる限り参加したり、自分たちが生活している地域で自然災害の被害が起きやすい場所を調べたりして、防災対策をしていきたい。
- 7 ハザードマップの活用のしかたを調べる。
 - ★ ハザードマップを活用しよう。
 - 地形図から、想定される浸水の深さが場所によって異なる理由を考える。
 - 教科書の資料を活用して、浸水すると想定されている深さを読み取り、安全に避難するルートを考える。
 - ハザードマップの想定を上回る状況の場合は、避難所や避難ルートをどのようにすればよいかを考える。
 - 本時の学習内容を活用して、身近な地域のハザードマップを使って、自宅や学校から周辺の避難所までの避難ルートを考える。
- 8 人口からみた日本の地域的特色と地域区分について調べる。
 - ★ 日本の人口構成や人口分布は、どのように変化してきたのだろう。
 - 人口減少と少子高齢化について調べる。
 - 人口分布のかたよりと課題について調べる。
 - ・関東地方から九州北部にかけて、都市が発達しているところは人口が多く、高齢者の割合が比較的低い。一方で北海道、東北、北陸、中央高地、山陰、四国、九州南部は人口が少なく、高齢者の割合が高い。
 - 人口からみた日本の地域区分について調べる。
- 9 資源・エネルギーからみた日本の地域的特色と地域区分について調べる。
 - ★ 日本の人々が生活していくための資源やエネルギーは、どのように確保されているのだろう。
 - 鉱産資源を外国に依存する日本について調べる。
 - 資源を確保するための取り組みについて調べる。
 - 環境問題への取り組みについて調べる。
 - 資源・エネルギーからみた日本の地域区分について調べる。
- 10 産業からみた日本の地域的特色と地域区分について調べる。
 - ★ 日本の産業には、地域によってどのような特色がみられるのだろう。
 - 日本の農業について調べる。
 - ・近郊農業 ・園芸農業
 - ・酪農 ・畜産業
 - 日本の漁業について調べる。
 - ・養殖業 ・栽培漁業
 - 日本の第2次産業について調べる。
 - ・太平洋ベルト
 - 日本の第3次産業について調べる。
 - 産業からみた日本の地域区分について調べる。
 - ・農業は北海道・東北・北陸・中央高地・山陰・南四国など、人口が少なく稲作や畑作、果樹栽培が盛んな地域に多い。漁業は工場が立地されている太平洋ベルトを除

- ・気象災害の種類によって、起こりやすさに地域差があることに気付かせる。
- ・教P. 148～P. 149
- ・自然災害が起こりやすい日本で、様々な防災や減災の取り組みが行われていることに着目させる。（人と自然とのかかわり）
- ・愛知県や自分が住んでいる市町のハザードマップを確認させるとよい。

【評】身近な地域における減災の取り組みの意味や意義を踏まえて、防災や減災に関わる諸活動にどのように参加できるかを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・教P. 151
- ・教P. 151の「スキルUP」を活用して、ハザードマップの活用のしかたを調べさせる。
- ・ハザードマップの読み取りに際しては、対象地域だけでなくその周辺地域の様子を把握しなければならないことを押さえる。

- ・例として、2019年10月の台風19号による豪雨では神奈川県箱根町で24時間に942.5mmの降雨があったことなど、想定を上回る状況があり得ることを押さえる。

- ・教P. 152～P. 153

- ・地域によって人口分布に違いがあり、過密・過疎が問題となっていることに着目させる。（位置や分布）
- ・教P. 152の「スキルUP」を活用して、人口ピラミッドの読み取り方を押さえる。
- ・教P. 152～P. 153の資料3～5を活用して、人口密度が高い地域と低い地域の特色に気付かせる。
- 【評】資料から人口密度が高い地域と低い地域の特色とその理由を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・教P. 154～P. 155

- ・日本は鉱産資源に乏しく、外国に多くを依存していることに着目させる。（位置や分布）
- ・資料から、日本は生活や産業を支える資源の多くを輸入に頼っていることに気付かせる。
- ・再生可能エネルギーは、開発が進められているが、エネルギー供給量に占める割合はまだ低いことを押さえる。

- ・教P. 156～P. 159

- ・なぜ農業・漁業・工業・商業・サービス業の分布が異なるのかに着目させる。（地域）
- ・アメリカの企業的農業と比較して、日本の農業の特色をつかませる。
- ・日本の食料自給率の低さを押さえる。
- ・排他的経済水域によって、漁獲方法に変化が生じたことを押さえる。
- ・工業地帯や工業地域について押さえる。

- ・情報化が進んだことにより、インターネットショッピングなどの通信販売が急速に広がったことに気付かせる。

【評】日本のそれぞれの産業が、どのような地域で盛んに行われているか調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

く沿岸部に多い。工業は太平洋ベルトを中心に、内陸部・北陸・東北などへの広がりが見られる。商業・サービス業は太平洋ベルトや仙台・札幌などの地方中枢都市付近に発達している。

11 交通・通信からみた日本の地域的特色と地域区分について調べる。

★交通網や通信網の発達によって、日本の地域間の結びつきはどのように変化したのだろうか。

- 日本と世界を結ぶ交通網について調べる。
- 国内の交通網の発達と生活の変化について調べる。

- 通信網の発達と生活の変化について調べる。

- 交通・通信からみた日本の地域区分について調べる。

12 学習を振り返り、単元のまとめをする。

★日本の国土全体の特色は、どのように地域区分すると分かりやすく説明できるのだろうか。

- 様々な視点からの地域区分のうち、どの区分を使うと、日本全体の特色をしやすいか考える。
- 日本全体の特色を説明するにあたって、どの区分が重要か考える。
- 日本全体の特色を説明しやすいと考えた区分を白地図に書き込み、オリジナルの地域区分図を作成する。

・教P. 160～P. 161

・人や物資の移動・輸送方法や、通信技術の発展に着目させる。（地域どうしのつながり）

- ・交通の便がよいところに、工場や物流倉庫が集まる傾向が強いことをつかませる。
- ・過疎化が進んでいる地域では、公共交通機関が廃止・減便され、生活が不便になっていることをつかませる。
- ・情報通信技術の進歩によって、インターネットを使って医師の診断が受けられるなど、生活に変化があったことに気付かせる。

・教P. 162

・教P. 162の表を活用させる。

・出来上がった地域区分図を、教P. 138～P. 139の地図の7地方区分と比較させる。

【 備 考 】